

「令和元年度 ひょうごユース防災・減災ワークショップ」

実施報告

1 趣 旨：阪神・淡路大震災をはじめとする先の災害の経験と教訓を継承すると共に、若者を中心として災害対応力を高めるための学びあいと訓練を行い、地域の防災意識向上につなげる。

2 日 時：令和2年1月15日（水）9：00～16：00

3 場 所：兵庫県立舞子高等学校

4 対 象：兵庫県内外の中学生・高校生および引率教員

5 参加者：219名

6 プログラムの内容

9：00 開会行事

舞子高校の下村校長よりあいさつがあった。その後、参加者全員で阪神・淡路大震災で犠牲になった6434名の方へ黙とうをささげた。



9：20 追悼演奏会

熊本市在住のシンガーソングライター進藤久明さんによる追悼演奏が行われた。熊本地震における被災地などで、音楽による支援活動を行っており、今回は『明日へ』をはじめとする全5曲を披露していただきました。コール&レスポンスや手拍子で会場の参加者と一体となり、演奏会を盛り上げてくれた。パワフルな歌声でアップテンポな曲調や心が落ち着くしっとりとした曲調のものを織り交ぜながら、家族との絆やふるさとの大切さ、被災地を勇気づける心温まるメッセージを歌にのせて伝えていただきました。



10：00 講演「生かされて生きる～震災を語り継ぐ～」

東北大学非常勤講師の齋藤幸男先生の講演が行われた。東日本大震災当時、石巻西高校の教頭で実際に避難所運営を体験された齋藤先生から、当時の様子や災害時に生徒が何をどうすればいいのかという教訓を伝えていただきました。「生徒を育てるのは生徒」・「教師を育てるのも生徒」・「学校をつくるのは生徒」という3つの言葉に感銘を受けた参加者も多かった。



11：20 分科会

18の部会に分かれて分科会を行った。大学教授や自衛隊、消防署、その他多くの企業から講師を招聘し防災についての学びを深めた。災害現場で活躍されている方々が、実際の映像や写真を使って迫力ある説明をしてくれた。その光景や気づきを必死にメモするなどし、学び取ろうとする姿が参加者から見られた。



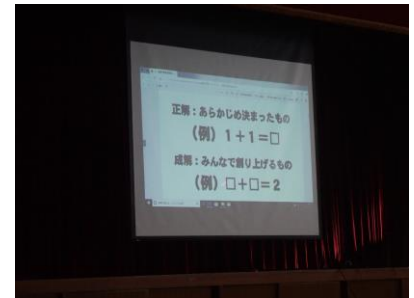
12:20 炊き出し「舞子千人鍋」

舞子高校生徒、PTA、自衛隊による炊き出し「舞子千人鍋」が振る舞われた。防災食を初めて口にした参加者も多かったようで、「温かい食べ物が食べられるのは幸せだ」や「災害時に食べたら、体だけでなく、心も温まるだろう」などという感想が聞かれた。味だけでなく、人の温かさにも気づかされた参加者もいた。



13:30 防災・減災ワークショップ

前半は東北大学非常勤講師の齋藤幸男先生によるワークショップが行われた。避難所運営に焦点を当て、避難所運営時における中高生の役割を理解しつつ、避難所運営マニュアルの組織図作成に取り組んだ。「正解ではなく成解を求める」という齋藤先生言葉を受け、参加者たちは自分たちで考え、作り上げていく大切さを学んだようであった。各グループ内で自分の意見を積極的に伝えたり、仲間の話をメモしたりと、防災に対する意識の高さを感じる雰囲気であった。



後半は国立淡路青少年交流の家大本所長による一日のまとめを行った。「今日一番の発見は？」という問いかけに対して、各グループ内で活発に意見交換がなされていた。参加者からは「災害時のチームワークの大切さ」や「私たち生徒自身の主体性」などの意見があがっていた。その他、「防災・減災において学校で取り組みたいこと」や「個人で取り組みたいこと」などの問いに対して、どの参加者も真剣に考えていた。参加者の多くから「先生や地域住民との信頼関係構築に取り組む」や「今日の学びを学校のみならずに伝えたい！」など積極的な声があがった。



7 参加者の声

- ・中高生にでもできることがたくさんあると気づいた。
- ・子どもの力の偉大さを知ることができた。
- ・過去の震災や防災についての知識が増えました。
- ・いろいろな県のいろいろな学校の人と交流ができ、たくさんの情報が得られたので良かった。
- ・今回学んだことを、地域住民や学校のみんに伝えていきたい。
- ・ワークショップ形式だったので、様々な人と意見交換ができてよかった。
- ・もう一度災害に対する意識を高めることができた。

8. 所感

- ・例年とは異なり日帰りでの実施となったが、追悼演奏、講演、分科会、ワークショップと中身は非常に充実したものとなった。
- ・実績のある多彩な講師の方々にご講演・ご講義いただき、参加型のワークショップは非常に面白かった。参加者の中には、過去に何度もこの合宿に参加したことがある者や、他の防災に関する合宿に参加経験がある者も目立ち、ワークショップ内でもハイレベルな議論がされていた。
- ・参加者同士が各校の防災についての取り組みを紹介し合う場面も見られ、地域特有の課題や対策があることを初めて知った者もあり、新たな学びや発見へ繋がったようであった。
- ・参加者アンケートからは、「今回の学びや経験を基に、地域住民や他の生徒に伝えたい」という記述が目立った。この事業を機に防災リーダーとしての自覚も芽生え、学びを生かそうとする意欲が感じられたことは良かった。
- ・当施設がある南あわじ市教育委員会職員の視察があった。同じ地域で生活する者であっても、見方や考え方が異なることも多く、情報交換をすることで改めて当施設及び、地域を見つめ直すよい機会になった。